

株式会社常磐植物化学研究所



ESGレポート2024

Tokiwa Phytochemical ESG Report 2024



tokiwa
PHYTOCHEMICAL

対象期間:2023年4月~2024年3月 発行日:2024年7月16日

目次

【tokiwaのサステナビリティ】

PHYTOCHEMICAL

- p.4 トップメッセージ
- p.5 設立趣意書、経営理念、行動規範
- p.6 サステナビリティ方針
- p.8 サステナビリティトピックス
- p.15 常磐植物化学研究所の事業とSDGs
- p.16 常磐植物化学研究所の製品利用

【環境-Environment-】



- p.18 エコアクション21(EA21)
- p.19 EA21 登録事業所の概要
- p.20 EA21 環境経営組織図及び実施体制
- p.21 EA21 2023年度の環境活動内容
- p.24 EA21 2023年度の環境活動内容詳細
- p.25 EA21 2030年度までの環境活動内容
- p.26 EA21 環境活動の実績と評価
- p.27 EA21 環境活動の取り組み計画
- p.28 EA21 中期計画
- p.29 EA21 2023年度環境活動の取り組み
- p.30 EA21 主要継続環境活動
- p.31 EA21 その他継続環境活動
- p.32 EA21 2023年度環境活動報告

【社会-Society-】



- p.34 社会への取り組み
- p.37 教育への取り組み
- p.40 植物化学発展への取り組み
- p.42 健康経営への取り組み
- p.44 働きやすい環境づくり
- p.47 労働安全・衛生への取り組み

【企業統治-Governance-】



- p.50 公平性・透明性のための情報開示
- p.51 コンプライアンスの遵守
- p.52 人権の尊重
- p.53 確かな品質の製品を製造するために
- p.55 BCPへの取り組み

tokiwaは様々なSDGs活動に
取り組んでいるたむ！



オリジナルキャラクター
ベねたむ

トップメッセージ



～～ヒト、モノ、そして資金をサステナブルに～～

常磐植物化学研究所のESGレポート2024をご覧ください、誠にありがとうございます。

15年間の環境・社会活動をご評価いただき、本年3月、環境大臣賞(エコアクション21オブザイヤー2023・ソーシャル部門・金賞)をいただきました。人的資本においても、2023年から2年連続で健康経営優良法人ブライト500認定をいただきました。ESG経営を公益性の高いサステナブルな資金に、事業の原動力に変えるため、2023年度末に千葉銀行と共に「ポジティブ・インパクト評価」を実施し、株式会社日本格付研究所(JCR)より第三者意見を取得致しました。本フレームワークは国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP FI)の公表する「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合しており、地方銀行が中小企業を対象に「ポジティブ・インパクト評価」を実施するのは当社が初めての取組みです。

なお、これらの取り組みにより、ESG社債を含むサステナブルファイナンスによる資金調達率は2024年6月末残高で、長期資金の95%となります。

2024年度、私たちは創業75周年を迎えます。私たちの使命は、創業100周年までの目標である「世界一の植物化学企業」の達成に向け、ファイトケミカル(植物成分)の研究開発・製造・販売を通じ、人と植物の明るく、ウェルビーイングな未来創りに貢献することです。

人、社会、植物から「生かされる」企業であるために、継続的にESG経営を社会に示し、サステナブルな地球環境、社会づくりに貢献して参ります。

設立趣意書

本社は薬学博士松尾仁氏を中心とする研究陣の豫ねて理想とする植物化学の成果の医薬的応用により、社会公衆の福祉増進に寄与することを念願として設立するものである。したがって本社の事業は単に営利のみを目的とせず、一半の力を植物化学の発達にも投ぜんとするものである。若し之に依って祖国再建の礎石の一半を荷うこととなれば、本社設立の主旨は達成されたに近い。

昭和二十四年八月
株式会社常磐植物化学研究所 設立発起人

経営理念

私たちは、
植物のちからを引き出し、新たな価値を創造します。
最高の技術で、最高の製品を製造します。
社員の幸福と社会の発展に貢献します。
そして、植物に感謝し、生かされる会社になります。

行動規範

私たちは、『経営理念』と、以下に定める『行動規範』を遵守します。
そして、地域、社会の未来を牽引できる倫理観を持ち続け、社会的責任を果たします。

1. 人間として正しい行動をします。
2. 人の命と健康、人権、文化、宗教を尊重します。
3. 学び、成長の機会を生涯持ち続けます。
4. 事業継続力(BCP)、ESG経営力を高めます。
5. 法令や規則を厳格に遵守します。
6. 個人・機密情報を守り、正確に情報発信します。
7. 反社会的勢力との関係を排除します。

社長、役員、部門長は、本規範を率先垂範し、社員の人間力向上に努めます。

サステナビリティ方針

1. 私たちは、限りある経営資源を大事にします。
2. 私たちは、社会、地球、植物から生かされる人・組織・会社であるために、何をすべきかを常に考え、行動します。

植物のちからを引き出し、新たな価値を創造し、人々の健康的な暮らしと社会の発展に貢献します。植物資源の調達から、植物化学研究、製品化まで、地球環境、社会への影響を重視し、持続可能な開発を目指します。

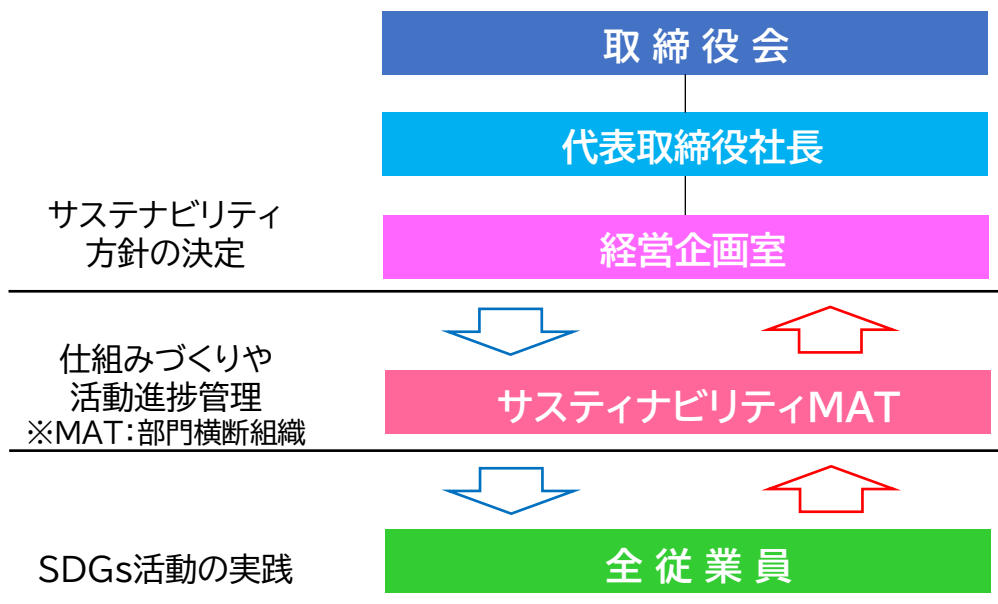
また、薬用植物の栽培や次世代への教育を通じて、植物への感謝を示し、人と植物の明るい未来づくりに貢献します。

常磐植物化学研究所のSDGs推進体制

SDGs(Sustainable Development Goals)とは、2015年9月に「国連持続可能な開発サミット」にて全会一致で採択された2030年までの新たな「持続可能な開発目標」で、17の目標と169のターゲットから構成されています。

常磐植物化学研究所では、2020年4月より代表取締役社長のもとに「経営企画室(旧:サステナビリティ統括室)」を、その配下に「サステナビリティMAT」を設置しました。

様々な事業・CSR活動を通してSDGsの実現に貢献していきます。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



TOKIWA Phytochemical Co.,Ltd. supports the Sustainable Development Goals

tokiwa の事業

PHYTOCHEMICAL

環境 Environment



社会 Society



ガバナンス Governance



サステナビリティピックアップ

■ ポジティブインパクト評価

2024年3月29日に千葉銀行の提供する「ポジティブインパクト評価」に取り組みました。

ポジティブインパクト評価とは、企業活動が経済・環境・社会に与えるインパクト(ポジティブ並びにネガティブな影響)を包括的に分析・評価するもので、企業活動の継続的な支援を目的としています。

千葉銀行が実施するポジティブインパクト評価は、千葉銀行とグループ会社である株式会社ちばぎん総合研究所が共同で行い、事業者のKPI(目標)設定やその進捗管理を支援するスキームとなっています。また、千葉銀行と株式会社ちばぎん総合研究所が共同して実施した評価について、株式会社日本格付研究所より第三者意見※1を取得することで客観性を担保されるものとなります。

なお、本制度のフレームワークが国連環境計画・金融イニシアチブ(UNEP FI)※2の公表する「ポジティブ・インパクト金融原則」に適合していることについても、同様に株式会社日本格付研究所より第三者意見を取得しています。

UNEP FIが提供する国際的な分析ツールでは、常磐植物化学研究所が属する業種のインパクトとして「保健・衛生」(ポジティブ)、「雇用」(ポジティブ、ネガティブ)、「水(質)」(ネガティブ)、「大気」(ネガティブ)、「資源効率・安全性」(ネガティブ)、「気候」(ネガティブ)、「廃棄物」(ネガティブ)、「包摂的で健全な経済」(ポジティブ)が確認されました。

※1 ポジティブ・インパクト金融原則への準拠性、活用した評価指標の合理性についての第三者意見

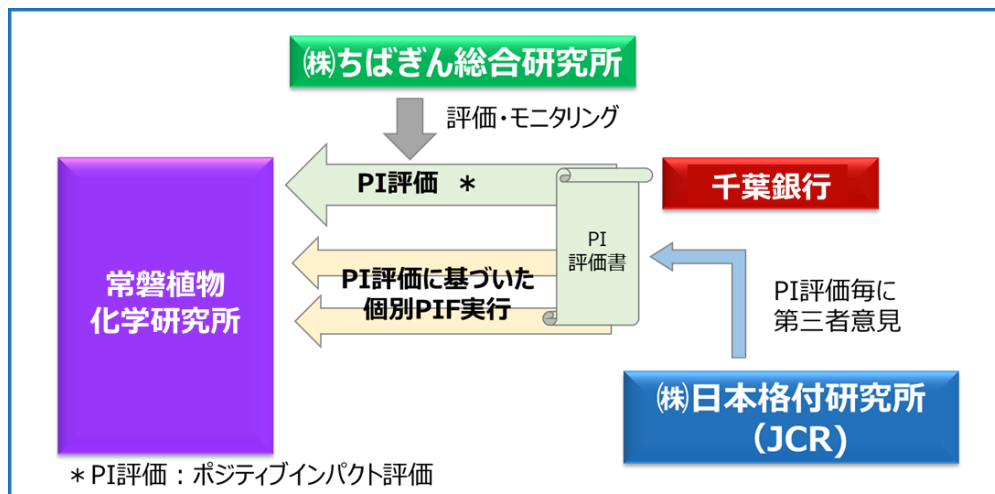
株式会社日本格付研究所のウェブサイトをご参照ください。

(<https://www.jcr.co.jp/greenfinance/>)

※2 国連の補助機関である国連環境計画(UNEP)と金融機関の自主的な協定に基づく組織。

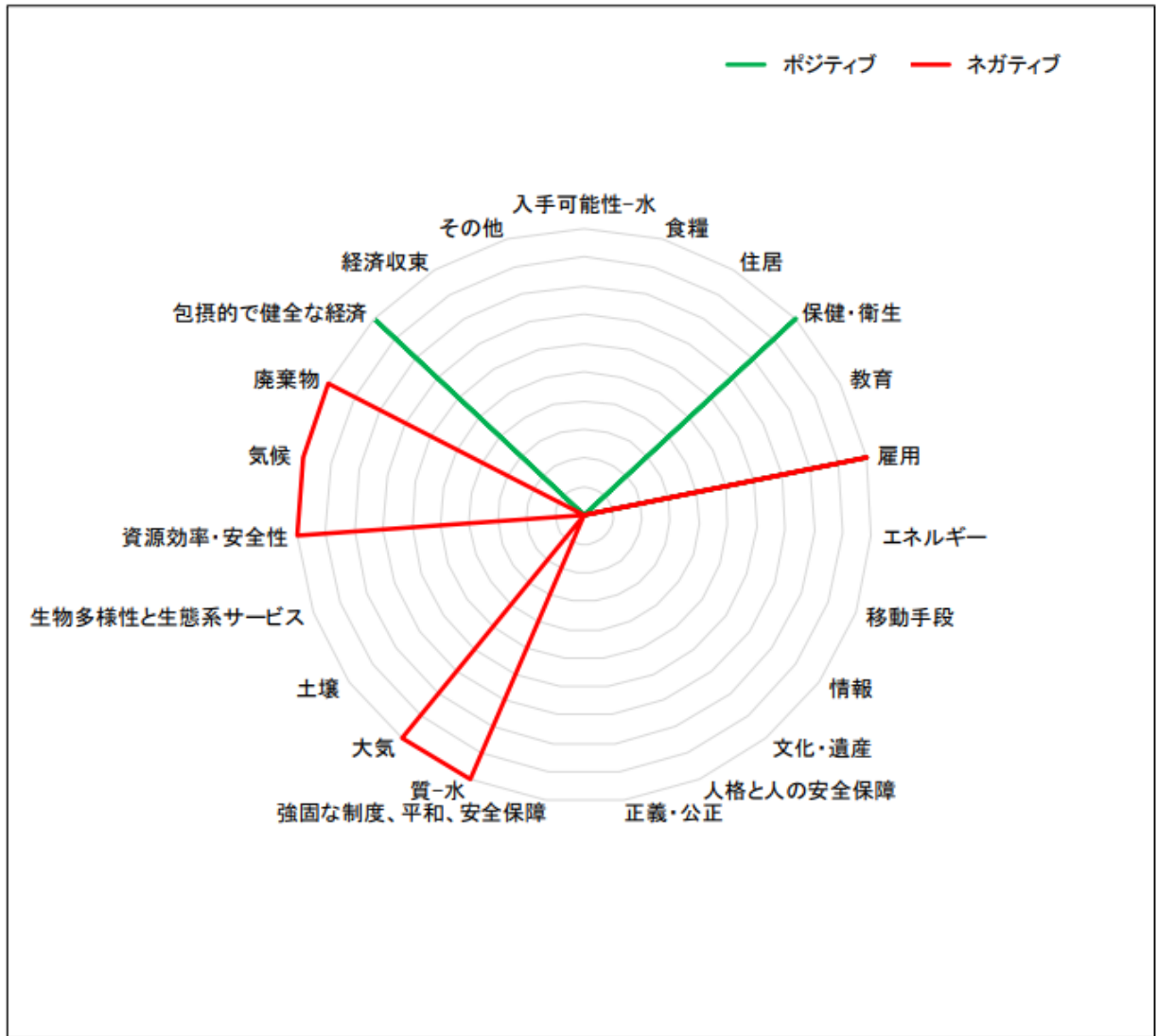
●株式会社千葉銀行が実施する 株式会社常磐植物化学研究所に対する ポジティブインパクト評価に係る 第三者意見

<https://www.jcr.co.jp/download/b52b379f5022dced520bf5c72cb82f78b1fc8d2e2f7ef29c1b/23d1741.pdf>



サステナビリティピックス

UNEP FIが提供する国際的な分析ツールでは、常磐植物化学研究所が属する業種のインパクトとして「保健・衛生」(ポジティブ)、「雇用」(ポジティブ、ネガティブ)、「水(質)」(ネガティブ)、「大気」(ネガティブ)、「資源効率・安全性」(ネガティブ)、「気候」(ネガティブ)、「廃棄物」(ネガティブ)、「包摂的で健全な経済」(ポジティブ)が確認された。



(出所: UNEP FI 分析ツールをもとにちばぎん総合研究所が作成)

サステナビリティピックス












常磐植物化学研究所の事業・サービス特性などをもとに個別分析を実施し、「保健・衛生」(ネガティブ)、「教育」(ポジティブ)、「資源効率・安全性」(ポジティブ)、「気候」(ポジティブ)、「廃棄物」(ポジティブ)、「経済収束」(ポジティブ)をインパクトに追加した。

「大気」(ネガティブ)については、社内で利用するフォークリフトを電動式フォークリフトに随時切り替えを行っており、有害物質発生の抑制に努めていること、「資源効率・安全性」、「廃棄物」(ネガティブ)についてリサイクル等、適切な処理をしていることからインパクトとしては特定するがKPIには設定しない。

	ポジティブ	ネガティブ
水(入手可能性)	○	○
食糧	○	○
住居	○	○
保健・衛生	●	●
教育	●	○
雇用	●	●
エネルギー	○	○
移動手段	○	○
情報	○	○
文化・伝統	○	○
人格と人の安全保障	○	○
正義・公正	○	○
強固な制度、平和、安全保障	○	○
水(質)	○	●
大気	○	●
土壌	○	○
生物多様性と生態系サービス	○	○
資源効率・安全性	●	●
気候	●	●
廃棄物	●	●
包摂的で健全な経済	○	○
経済収束	●	○
その他	○	○

サステナビリティピックアップス

「ポジティブインパクト評価」の概要

評価実施先	株式会社常磐植物化学研究所		
評価実施日	2024年3月29日(金)		
評価内容	領域 (テーマ)	取組内容およびKPI(目標)	関連する SDGs
	社会 (保健・衛生、教育、雇用)	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度にヘルシーテラスの利用割合を80%とする ・健康経営優良法人を維持する ・佐倉サイエンスアカデミー(研究者向け)を年1回開講する ・佐倉アカデミアを含む小中高生向け講義を年3回実施する ・2024年以降、年1回松尾仁賞(植物化学シンポジウム)表彰を実施する ・2026年度までにユースエール認定を取得する ・2030年度までに <ul style="list-style-type: none"> ①時間外労働の削減 残業時間 10時間未満/月 ②有給休暇取得率の向上 付与された有給休暇日数の70%取得した人の割合70%以上 	  
	環境 (水(質)、資源効率・安全性、廃棄物、気候)	<ul style="list-style-type: none"> ・2030年度までに総地下水吸い上げ量を3,500 m³(売上高1億円当たり)とする ・2030年度までに廃棄物(抽出残渣)100%をリサイクル可能な資源として活用する ・2030年度までにJクレジットを創出する ・2030年度までにカーボンニュートラルを達成する ・2030年度までに自家消費太陽光発電の発電容量を750kWとする ・使用電力の再生可能エネルギー比率100%を維持する ・2025年度までに「再エネ100宣言 RE Action」に登録する 	    
	経済 (経済収束)	<p>本社・自社工場を災害時等のBCP拠点化し、2030年度までに拠点としての体制を整備する</p>	 
	社会・経済 (保健・衛生、経済収束)	<p>2030年度までに健康に配慮したオリジナル商品2品目を開発・提供する</p>	
その他	<p>上記KPIについては千葉銀行とちばぎん総合研究所が共同し、その進捗状況について年1回モニタリングを行うことで、評価実施後も事業者様の伴走支援を行ってまいります。</p>		

サステナビリティトピックス

■ “健康経営優良法人ブライト500” に認定

健康経営優良法人2024(中小規模法人部門)にて、「ブライト500」に認定されました。2023年の初認定から2年連続での「ブライト500」認定です。(「ブライト500」は、応募した中小規模法人のうち上位500社に贈られる。2024年の中小規模法人部門のエントリー数は16,733法人。うち、千葉県企業は13社。)

健康経営優良法人とは、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を経済産業省が顕彰する制度です。

tokiwaは健康経営を推進しており、今年には本社の隣に新設した健康的な昼食が摂れる新しい食堂「sakuraヘルシーテラス」の本格稼働や、運動機会にも繋がる社内部活動の発足などの取り組みで更なる社員の健康づくりをサポートして参ります。



2024

健康経営優良法人

Health and productivity

ブライト500

■ “エコアクション21 オブザイヤー2023
ソーシャル部門 金賞(環境大臣賞)” 受賞

「エコアクション21 オブザイヤー」は環境経営レポート及び社会課題解決につながる取組を顕彰することで、脱炭素社会の実現、SDGsの達成に向けた多様な取組を国内に広く発信するとともに、こうした動きを加速化させることを目的とした、一般財団法人持続性推進機構が行っているアワードです。

この度、金賞をいただくことができ、とても光栄に思います。近年は、2007年から開始した環境経営から、社会や企業統治への取り組みを含めたESG経営へと転換し、99%カーボンニュートラルの実現や社員・地域社会のウェルビーイング施設の新設など、様々な取り組みを行っております。



エコアクション21

認証・登録番号0003872

サステナビリティピックアップ

■ “ダイヤモンド経営者倶楽部 2024年度年間優秀企業
審査員特別賞” 受賞

本表彰は、ダイヤモンド経営者倶楽部会員企業の中から2023年に顕著な活躍をした企業を選考するものです。tokiwaが注力するESGの取り組みなどをご評価いただき、このような賞をいただくことができました。



■ “千葉県元気印企業大賞 審査員特別賞” 受賞

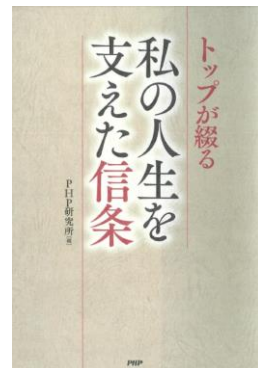
「千葉県元気印企業大賞」(<https://www.chiba-genki.jp/>)とは、新技術、新製品開発、ユニーク経営などを通じ、活力溢れる経営で時代を先取りする中堅・中小およびベンチャー企業を広く表彰する、産経新聞社が主催する企業表彰制度です。

特別賞は、地方創生に資する取り組み、特に円滑な事業承継・人材育成によって長年に渡り事業継続されている企業に贈られる賞です。

■ PHP研究所出版
「トップが綴る私の人生を支えた信条」に掲載

PHP研究所出版の「トップが綴る 私の人生を支えた信条」(各界の経営トップの人生を支えた考え方を紹介する書籍)に、立崎仁社長の記事が掲載されました。

立崎社長の人生を支えた信条は幸田露伴が唱えた「幸福三説」です。「幸福三説」の信条をもとに行っている美化活動、教育CSR活動、地域社会のウェルビーイング実現に向けた取り組みなどにも触れながら、人生にどのように影響を受けたのかを紹介しています。



常磐植物化学研究所の事業とSDGs



■ 植物のちからを健康に。

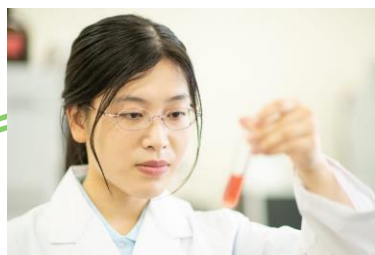
常磐植物化学研究所では、植物成分(ファイトケミカル)を抽出・精製し、医薬品や化粧品、機能性表示食品などに配合される原料を製造しています。当社の名前が消費者の皆様が目や耳に入ることはないかもしれませんが、当社原料は陰ながら、人々の健康に貢献しています。

近年は機能性表示食品制度に対応した素材開発に注力しており、当社原料を配合した機能性表示食品は累計300商品を超える受理実績があります。

※機能性表示食品制度:

事業者の責任において、科学的根拠に基づいた機能性を表示した食品です。販売前に安全性及び機能性の根拠に関する情報などが消費者庁官へ届け出られたものです。

研究開発



品質管理



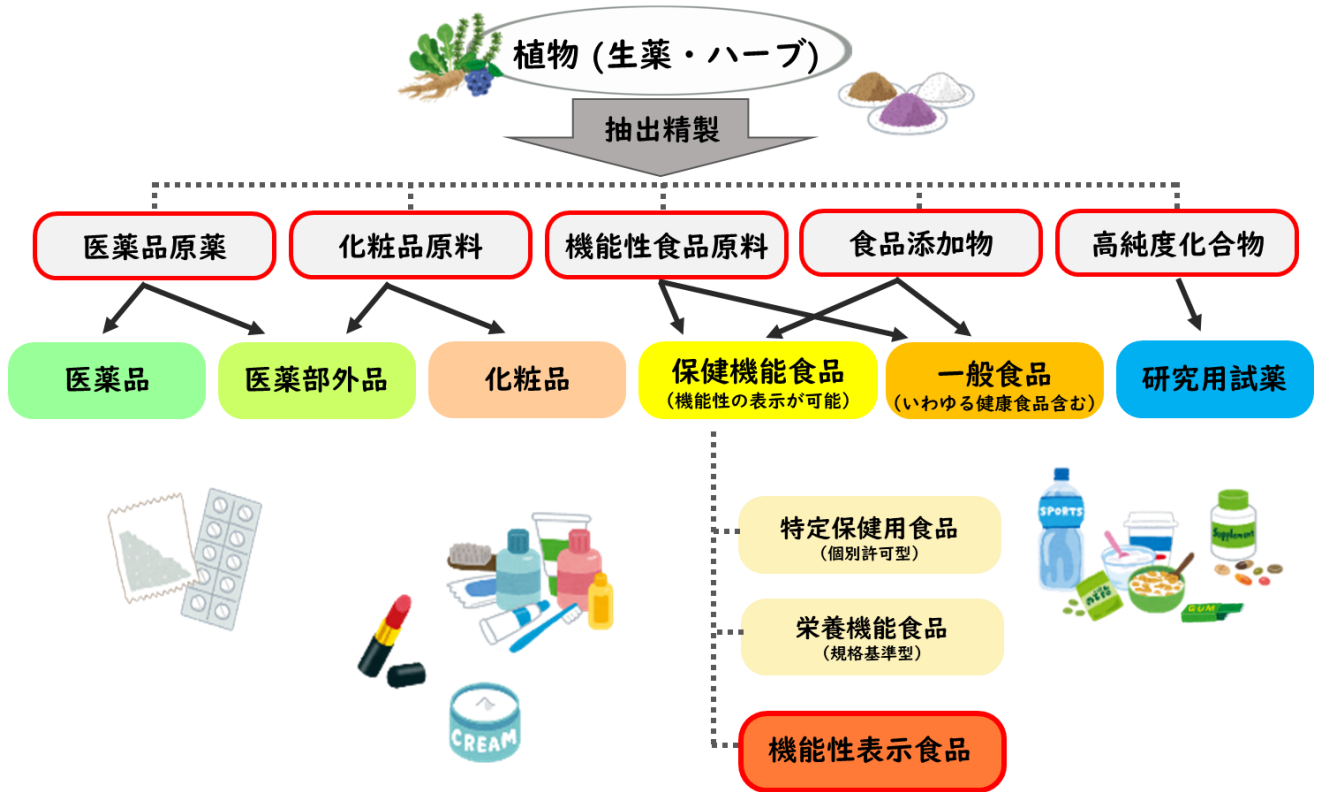
技術開発



製造



常磐植物化学研究所の製品利用



機能性表示食品対応素材 12製品

<p>フェムケア/ 睡眠の質向上 ラフマ</p> <p>VENETRON®</p>	<p>オーラルケア 月桂樹</p> <p>LAURESH</p>	<p>アイケア ビルベリー</p> <p>BILBERON®</p>	<p>アイケア ビルベリー</p> <p>ビルベリー 冷凍果実</p>	<p>アイケア マリーゴールド</p> <p>マリーゴールド エキス</p>	<p>記憶力・判断力の向上 イチョウ</p> <p>GINKGOLON</p>
<p>体温維持 ショウガ</p> <p>Ginger warmer</p>	<p>食後血糖値 クワ葉</p> <p>クワ葉エキス末</p>	<p>空腹時血糖値 バナバ</p> <p>コロソリン酸-18%</p>	<p>肌の潤い コメ</p> <p>ライスセラミド</p>	<p>骨の成分維持 大豆</p> <p>ISOMiX</p>	<p>脂肪減少 脂質の吸収抑制 茶</p> <p>ティアカロン</p>

Environment

環境



べねたむ

環境への
取り組みたむ！

環境への取り組み

®環境省
エコアクション21
認証番号 0003872

■ エコアクション21(EA21)

当社は、環境経営を実践するために、環境省が策定したガイドラインである“エコアクション21 (EA21) 認証登録制度”に登録し、自らの環境への取り組みを推進しています。またEA21に参加する事で、地域環境の取組みも積極的に行っています。

EA21とは、全ての事業者が、環境への取り組みを効果的・効率的に行うことを目的に、環境に取り組む仕組みを作り、活動し、継続的に改善し、その結果を社会に公表するための方法について、環境省が策定したガイドラインです。EA21ガイドラインに基づき、取り組みを行う事業者を審査し、認証・登録する制度がEA21認証・登録制度です。

環境経営方針

1. 基本理念

植物のちからを引き出し、新たな価値を創造し、人々の健康的な暮らしと社会の発展に貢献します。植物資源の調達から、植物化学研究、製品化まで、地球環境、生物多様性、社会への影響を重視し、持続可能な開発を目指します。また、植物の栽培と教育を通じて、人と植物の明るい未来づくりに貢献します。

2. 環境方針

私たちは環境問題、SDGs(持続可能な開発目標)を重視し、以下の方針を遵守します。また、「佐倉市ゼロカーボンシティ宣言」を支持し、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指します。

①環境経営体制の強化

環境改善を継続的かつ発展的に行っていく為の経営管理サイクルを強化します。

②カーボンニュートラルを目標に、省エネルギーおよびCO2排出量削減の推進

エネルギー効率を高め、環境にやさしい事業活動に取り組みます。

③循環経済(Circular Economy)に向けた

4R(Rethink、Reduce、Reuse、Recycle)の推進

信頼できるサプライヤーからの必要最低限の原料(植物)調達、化学物質使用量や排水量の低減に向けた製法検討(Rethink)を通じて、より環境負荷の少ない製造を行います。また、製造工程の結果生じた植物抽出残渣は積極的に有効活用し、廃棄物を削減(Reduce)します。加えて、プラスチックゴミの分別を徹底し、紙、段ボール、金属等を積極的に再資源化(Reuse, Recycle)します。

④環境関連法規の遵守

環境法規を遵守し、国や地方の行政方針に従います。

⑤環境方針の周知と教育の推進

地球環境と共栄していくため、社員一人一人の環境保全の意識を高めます。また、薬用植物の栽培と教育を推進し、薬用植物の保全に貢献します。

制定年月日:2024年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

⑥地域の人々との共生

地域社会の一員として、地域の人々の安全と環境保全に努めます。

立崎 仁

EA21 登録事業所の概要

● 事業者名及び代表者名

株式会社 常磐植物化学研究所
代表取締役社長 立崎 仁

● 所在地

本社・工場 : 千葉県佐倉市木野子158番地
<https://www.tokiwapl.co.jp/>
東京支社 : 東京都中央区日本橋本町4-4-16 日本橋内山ビル6F

● 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理責任者 : 丸山 敏明
担当者 EA21事務局 : 角田 善春、秋庭 愛
TEL 043-498-0007

● 事業内容(認証・登録の範囲)

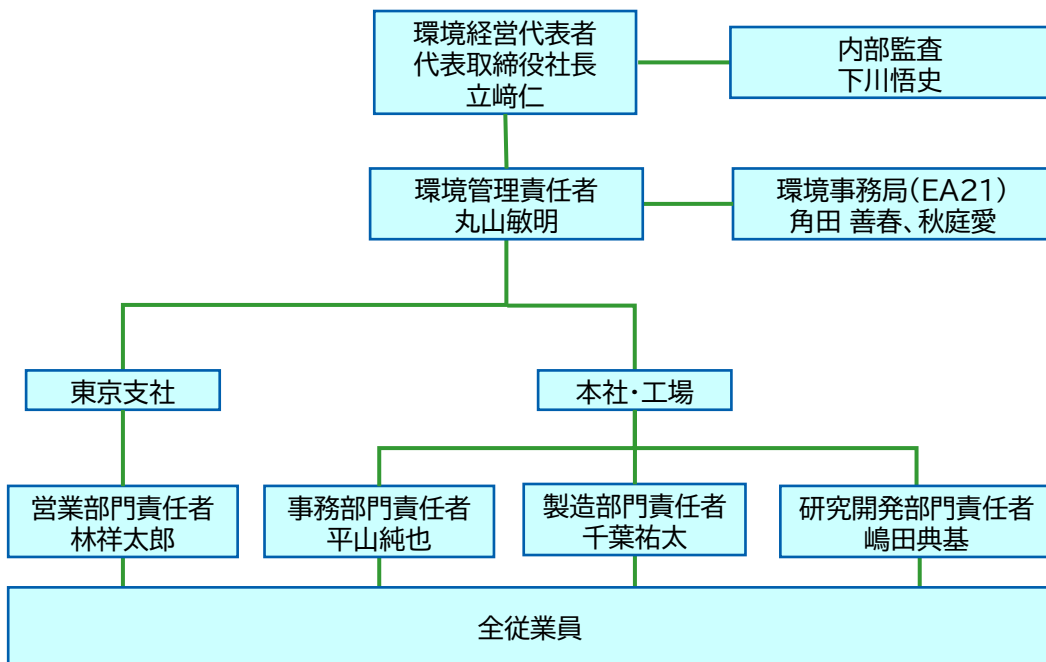
認証・登録番号 : 0003872
認証・登録年月日 : 2009/07/13
認証・登録事業者名 : 株式会社常磐植物化学研究所
対象事業所名 : 本社・工場、東京支社、原料倉庫、排水処理場、
佐倉ハーブ園
所在地 : 千葉県佐倉市木野子158番地
事業活動内容 : 医薬品原薬、化粧品原料、
機能性食品原料及び食品添加物の製造・販売
ハーブ園の運営

● 事業規模

資本金 : 8,000万円
主要製品生産量 : 253 t/年
従業員 : 本社・工場 142名
東京支社 9名 (2024年5月16日現在)
工場延べ床面積 : 本社・工場 9,296㎡
東京支社 138㎡

EA21 環境経営組織図及び実施体制

● 環境経営システム組織図



● 役割・責任・権限

環境経営代表者	環境経営に関する統括責任 環境経営方針の策定及び見直しを全従業員に周知 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間を用意 環境目標の設定を承認 環境管理責任者の任命 代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	環境経営システムを構築、実施し、管理 環境活動実施計画書・記録書を承認 環境活動の取組結果を代表者へ報告
環境事務局	環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 環境関連法規一覧の作成 環境目標・環境活動実施計画書原案の作成 環境活動実施計画の実績集計
内部監査	内部監査の実施及び内部監査チェックリストの作成 環境経営代表者への内部監査状況の報告及び改善提案
部門責任者	各部門ごとの環境活動実施計画書・記録書を作成 各部門ごとの環境活動実施手順書を作成 自部門に関連する環境目標及び環境活動計画の実施及び達成状況の報告 部門の問題点の発見、是正、予防処置、報告
全従業員	環境方針を理解と環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加 個人行動計画表への記入

EA21 2023年度の環境活動内容

● 環境目標及び主な活動取り組み内容一覧

評価完了日:2024年5月23日

	項目	取り組み内容	評価
全施設	二酸化炭素排出量 (電力)の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■各施設・工場での電気消し忘れ防止(チェックシートの運用) ■冷房28℃、暖房22℃以下設定の徹底 ■機器メンテナンスの手順化・スケジュール化 ■空気清浄機の定期清掃 ■省エネ機器の導入(太陽光パネル設置後の運用確認) ■太陽光パネルの発電量確認 ■未使用時・休憩時・退出時の電気機器・照明の電源確認 ■冷蔵庫・冷凍庫の使用方法の見直し 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
	二酸化炭素排出量 (燃料)の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■ボイラー管理 ■蒸気漏れ定期点検及び修繕 ■電動式フォークリフトへの更新 ■カーボンニュートラルLNGへの切り替え ■社用車の走行距離、ガソリン購入費の記録、メンテナンス ■エコドライブ10のすすめアナウンス 	○ ○ ○ ○ ○ ○
	一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■廃プラの分別回収し固形燃料化 ■廃棄物量・分別の管理 ■生ごみ処理機使用→残飯のたい肥化による食品ロスの削減 ■資源ゴミ・空カートリッジ回収・管理 ■紙類・コピー用紙の削減 	○ ○ ○ ○ ○
	産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■残渣の堆肥化 ■産業廃棄物量の分別管理 ■食品廃棄物の分別管理 ■鉄くず廃プラの分別整理 ■ガラス器具破損防止 	○ ○ ○ ○ ○
	水使用量(放流量)の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■工場内の水漏れの定期点検 ■工場用水の使用量の把握と管理 ■工場用水・水漏れ箇所の修繕 ■洗浄工程見直しによる節水立案・実施 ■退出時に元栓の開閉見回り ■流量計のデータ収集とアナウンス ■本社水使用量の管理、アナウンス 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○
	化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■エタノール購入量の管理 ■残渣乾燥機からのエタノール回収量確認(装置稼働と管理含む) ■クロロホルム・アセトニトリルの使用量確認 ■毒劇物試薬における使用量の管理 ■抽出残渣乾燥機の導入・運転 ■移動相使用量削減に向けたHPLC分析方法の作成 	○ ○ ○ ○ ○ ○
	製品についての再生品の低下	<ul style="list-style-type: none"> ■再生品の把握と管理 ■再生品発生の原因確認 	○ ○
東京支社	環境経営効率の向上 [売上の向上]	<ul style="list-style-type: none"> ■国内の展示会出展・ウェビナー実施 ■機能性表示食品受理件数の把握 	○ ○
本社	再利用・再活用 地域清掃活動	<ul style="list-style-type: none"> ■「あげたい！もらいたい！みんなの不用品マッチングアプリ」 ■月一回の地域周辺美化活動の実施 	○ ○

EA21 2023年度の環境活動内容

● 環境活動計画の目標値、実績及びその評価(全事業所)

評価完了日:2024年5月31日

項目	目標値と実績値	評価
電力使用量	目標値:4,029,152kWh 実績値:3,837,814kWh	目標達成!
都市ガス使用量	目標値:865千m ³ 実績値:861千m ³	目標達成!
二酸化炭素排出量 化学燃料換算係数 ガソリン:2.32kg-CO ₂ /L 軽油:2.58kg-CO ₂ /L 灯油:2.49kg-CO ₂ /L 都市ガス:2.24kg-CO ₂ /Nm ³ 電力換算係数: 0.386kg-CO ₂ /kWh	目標値:35,842 kg-CO ₂ 実績値:30,290 kg-CO ₂	目標達成!
一般廃棄物量	目標値:25.7トン 実績値:38.9トン	目標未達成
食品・産業廃棄物量	目標値:92.5トン 実績値:83.9トン	目標達成!
化学物質使用量	目標値:859.7千L 実績値:804.0千L	目標達成!
総排水量	目標値:100,358m ³ 実績値:98.680m ³	目標達成!

※電力の二酸化炭素排出係数はシナジアパワー2020年の値0.386kg-CO₂/kWhを使用する。
→2022年11月より、カーボンニュートラル電気に切り替え、それ以降のCO₂排出量は実質ゼロとなった。

※再生利用等実施率の実績値に関する「内訳」:

①発生量 348.7 t

②発生抑制の実施量 808.9 t

③再生利用量 348.7 t

④熱回収実施量 0.0 t

⑤廃棄物の減少実施量 0.0 t

⑥再生利用以外の実施量 0.0 t

⑦廃棄物処分実施量 0.0 t

$$\begin{aligned} \text{食品循環資源の再生利用実施率(\%)} &= \frac{(\text{②}+\text{③}+\text{④}\times 0.95+\text{⑤})}{(\text{①}+\text{②})}\times 100 \\ &= 100\% \end{aligned}$$

再生利用についての工夫:工場にて使用している植物原料の抽出残渣を自社で堆肥化し、肥料として再利用など。

EA21 2023年度の環境活動内容

●第3社算定機関によるサプライチェーンCO2排出量の算出

2022年度のCO2排出量について、第3社算定機関より「温室効果ガス排出量検証」を実施いたしました。結果は下記の通りです。

検証された温室効果ガス排出量(t-CO ₂ e)	
スコープ1	37.3
スコープ2※3	3,035.9

※3:電力の排出係数:電気事業者・メニュー別調整後排出係数を使用

算定対象:本社および工場、東京支社

算定方法:温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度および事業者の算定手順

サプライチェーン排出量

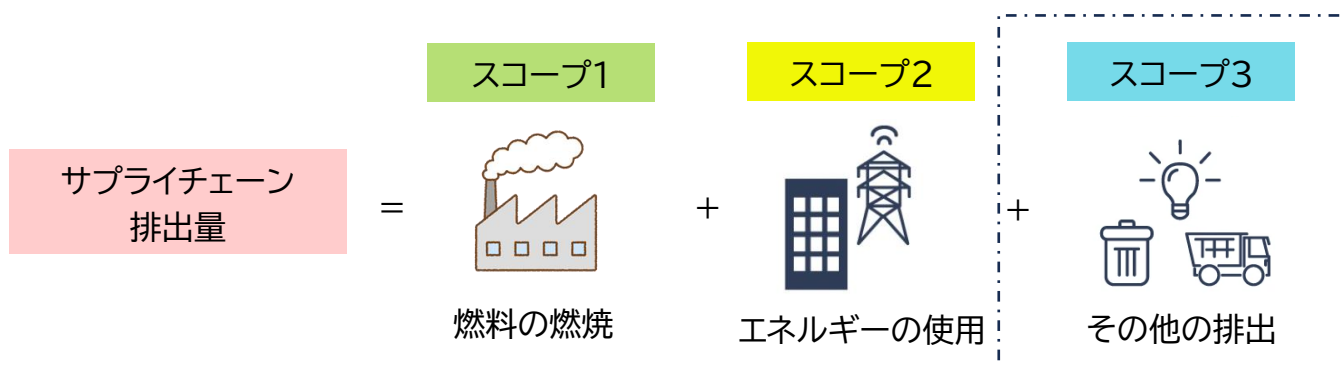
「事業者自身」と「事業活動において関わるあらゆるところ」から排出される温室効果ガス総量

1) スコープ1温室効果ガス排出量

事業者自らの燃料燃焼や工業プロセスに伴って直接的に排出されるCO2排出量

2) スコープ2温室効果ガス排出量

他社より供給された電力、蒸気などのエネルギー使用に伴って間接的に排出されるCO2排出量



2030年までにスコープ3まで算出し、トータルサプライチェーン排出量を明確にする予定です。

事務局 秋庭

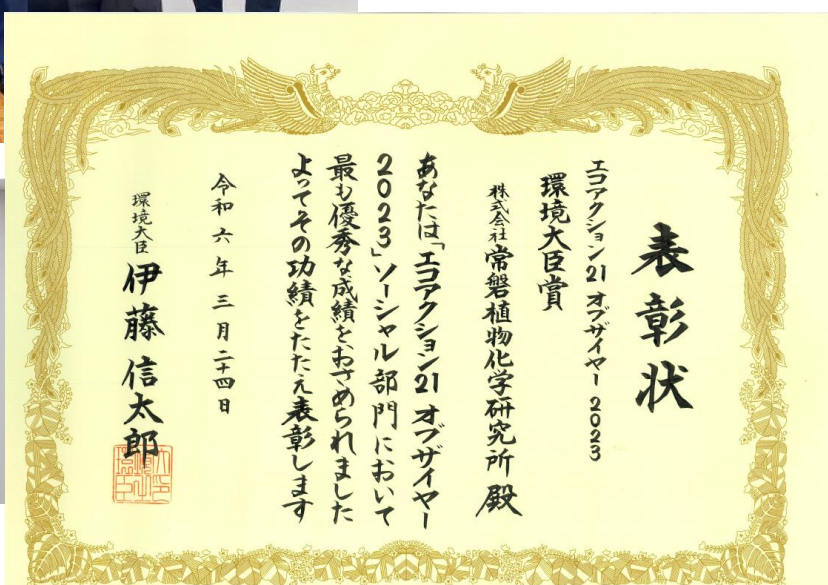
EA21 2023年度の環境活動内容詳細

【エコアクション21オブザイヤー2023 環境大臣賞】受賞！

tokiwaは2009年から継続して「エコアクション21」認証を取得しています。

CO₂排出量の影響が大きい電気とガスの削減取り組みを強化しており、電気は、カーボンニュートラルの電気を100%購入、ガスはカーボンオフセットしたLNGを100%購入など、ニュートラル化を推進してきました。

これらを含む、これまでの環境活動や、社内と地域を巻き込んだ仕組みづくりが評価され、このような栄誉ある賞をいただくことができました。



べねたむも
参加したたむ！



「エコアクション21 オブザイヤー」は環境経営レポート及び社会課題解決につながる取組を顕彰することで、脱炭素社会の実現、SDGsの達成に向けた多様な取組を国内に広く発信するとともに、こうした動きを加速化させることを目的とした、一般社団法人持続性推進機構が行っているアワードです。

EA21 2030年度までの環境活動内容

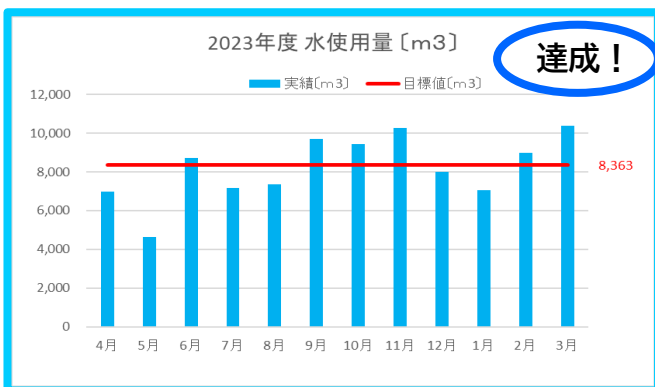
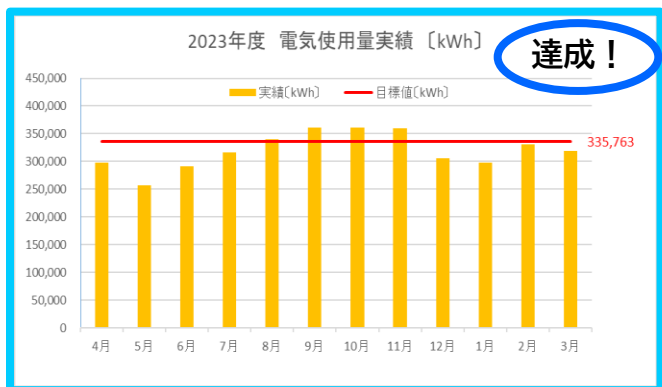
● ESGファイナンスによるポジティブインパクト評価(環境部門)

評価完了日:2024年3月29日

項目	インパクト区分	取り組み内容	KPI	対応SDGs	目標に向けて2024年度の取り組み
水(質)	ネガティブインパクト	環境負荷の軽減	2030年度までに総地下水吸い上げ量を3,500m ³ (売り上げ1億円当たり)とする	6 安全な水とトイレを世界中に 	達成済み 継続
資源効率・安全性、廃棄物	ポジティブインパクト	資源の再利用	2030年度までに廃棄物(抽出残渣)100%をリサイクル可能な資源として活用する	11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 	サブ目標: 2026年度までに全て有価物にする ⇒受入先との連携強化(利用価値の向上など)、および新規受け入れ先の創出
気候	ポジティブインパクト	環境負荷の軽減	2030年度までにJクレジットを創出する	12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 	達成済み(登録完了) (2024年度より創出開始)
気候	ネガティブインパクト	環境負荷の軽減	①2030年度までにカーボンニュートラルを達成する ②2030年度までに自家消費太陽光発電の発電容量を750kWとする ③使用電力の再生可能エネルギー比率100%を維持する ④2025年度までに「再エネ100宣言REAction」に登録する	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 13 気候変動に 具体的な対策を 	①関係部署との プランニング ②開発許可申請 ③継続 ④関係部署との プランニング

EA21 環境活動の実績と評価

● 2023年度環境実績(全社総合データ)

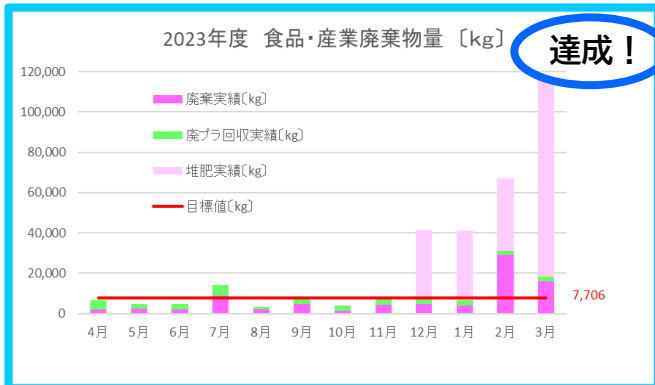


コメント

4～7月は一部機器が稼働していなかったことが大きく、直接的な削減となったが、9～11月は交代勤務の定常化と全機器の稼働により、本来のあるべき生産状況での使用量が出たとみている。今後は各棟のLED化を完了させ消費電力を抑える予定。

コメント

4～7月は各部で取り組みが行われ、昨年度よりも減少傾向となったが、9～11月は生産品目で水を大量に使用するものが多かったため、オーバーしてしまった。洗浄に使用する水は減らせないため、化学物質同様、冷却装置など水を繰返し使える機器の新調を計画する。

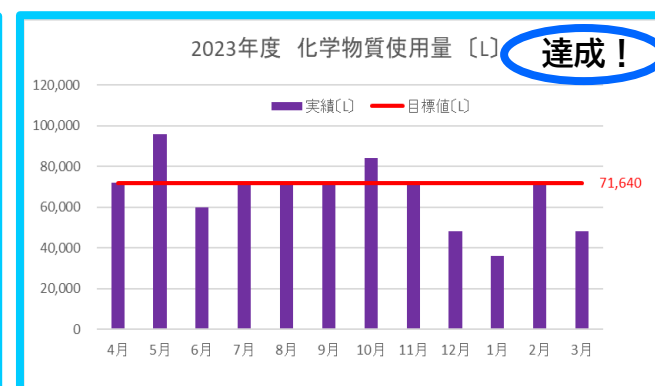
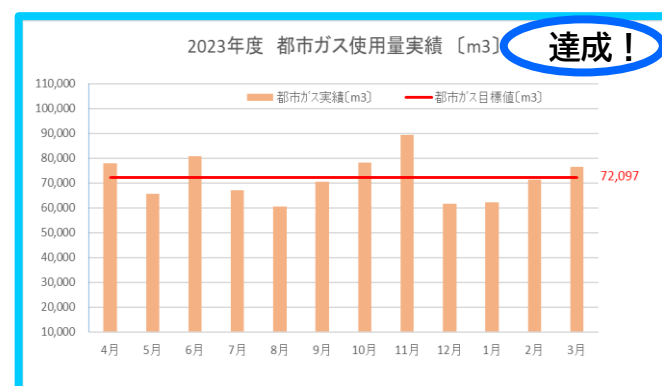


コメント

廃プラ分別が本格開始された1月は目で見える形で結果が確認できたが、2, 3月は製造増と分別の教育不足により、ぶり返す形となった。引き続きアナウンスと教育をするとともに、増加原因の究明を行い、目標設定値を再考して管理体制を強化する。

コメント

7月は前年度分の廃棄物を処分したため、他の月よりもやや多めになっている。12月より活用できている植物残渣についても産廃としてカウントするようになった為、表に反映している。製造量増となり2, 3月は目標値をオーバーしているので、堆肥適応品目を増やすことで改善を目指したい。



コメント

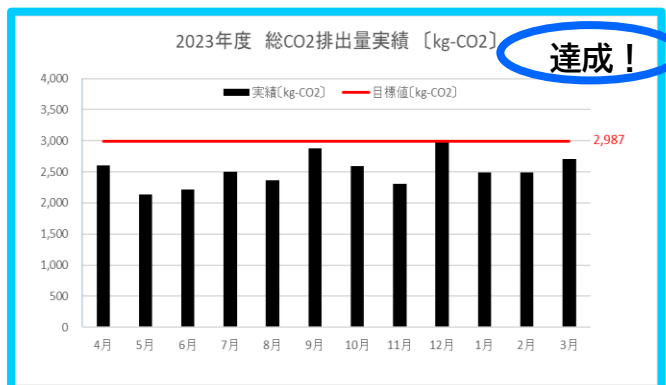
こまめなボイラー整備により、使用量は全体平均として達成できた。カーボンニュートラル都市ガスによって、CO2相殺はできているが、目標値を超えている月もある。機器新調を視野に入れ、節ガス対策を行っていく。

コメント

生産増に伴い、物理的削減が難しくなったため、抽出残渣からの抽出溶媒(有機溶媒)の回収・再精製の本格運用を開始した。再利用するにより、化学物質の使用量を抑え、目標値に到達できた。

EA21 環境活動の実績と評価

● 2023年度環境実績(全社総合データ)



コメント
 二酸化炭素排出量に関しては電気と化石燃料から換算して算出している。2022年度から導入したカーボンニュートラルLNGを引き続き使用し、事業所内で発生しているCO₂はフォークリフトの排気分のみを維持している。年間を通して目標値を達成できていることから、より厳しい次年度目標設定も視野にいれる。

EA21 環境活動の取り組み計画

● 2024年度 主な取り組み予定

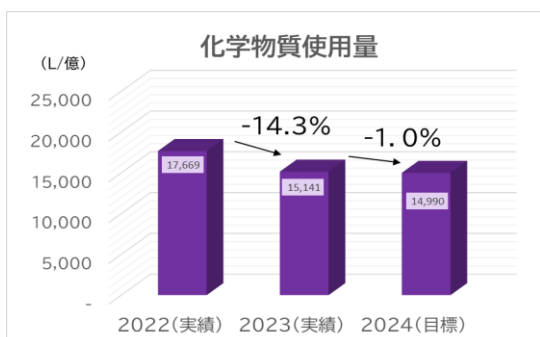
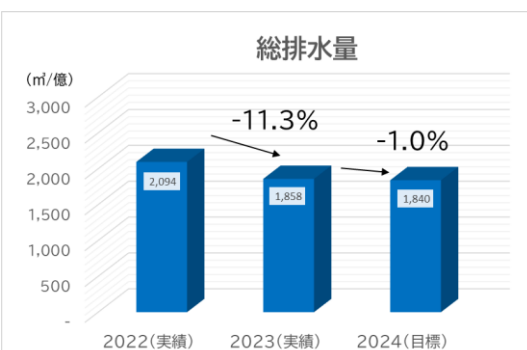
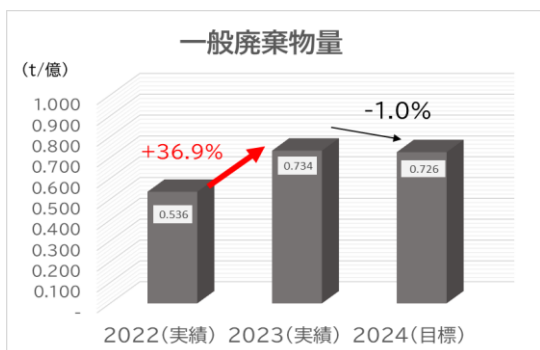
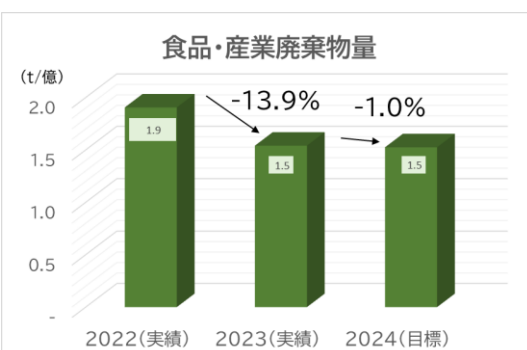
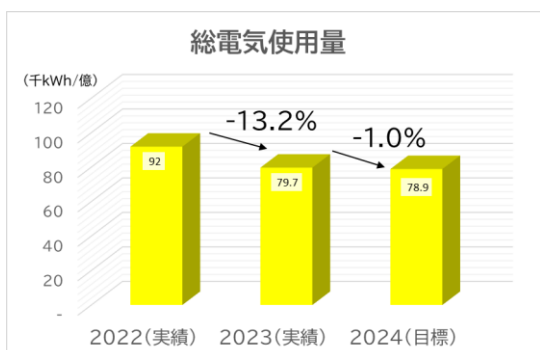
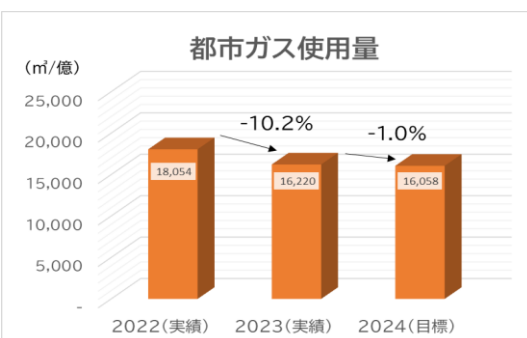
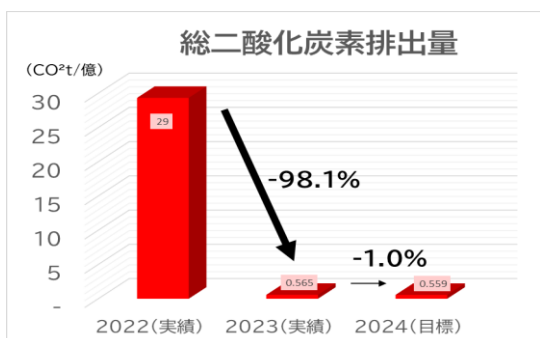
	項目	取り組み内容
全施設	二酸化炭素排出量(電力)の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■各施設・工場での電気消し忘れ防止 ■冷房28℃、暖房22℃以下設定の徹底 ■太陽光パネルの発電・運用
	二酸化炭素排出量(燃料)の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■ボイラー管理(蒸気漏れ定期点検及び修繕) ■社用車のEV車導入検討 ■社用車の走行距離、ガソリン購入費の記録、メンテナンス、エコドライブ推奨
	一般廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■廃棄物量・分別の管理 ■資源ごみ回収量増、集計及び金額集計 ■紙類・コピー用紙の削減 ■新規活用方法、取引先の開拓
	産業廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■産業廃棄物・食品廃棄物の分別・量管理 ■鉄くず廃プラの分別整理 ■ガラス器具破損防止
	総排水量の節減	<ul style="list-style-type: none"> ■工場内の水漏れの定期点検 ■工場用水の使用量の把握と管理 ■冷却工程の機器見直しによる節水立案
	化学物質使用量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ■エタノール購入量・回収量の把握と管理 ■クロロホルム・アセトニトリルの使用量確認 ■毒劇物試薬における使用量の管理
	製品についての再生品の低下	<ul style="list-style-type: none"> ■再生品の把握と管理 ■再生品発生の原因確認
東京支社	環境経営効率の向上[売上の向上]	<ul style="list-style-type: none"> ■新規顧客開拓 ■国内の展示会出展・ウェビナー実施 ■水漏れの点検
本社	地域清掃活動	<ul style="list-style-type: none"> ■「あげたい！もらいたい！みんなの不用品マッチングアプリ」継続 ■月一回の地域周辺美化活動の実施

EA21 中期計画

● 2022～2024年度の目標計画

一般廃棄物に関して目標数値が達成できず増加傾向となった。
昨年度に引き続き、「資源の再利用」をクリアすべき項目として浮き彫りとなった。
目標をクリアした他項目を含め、「生産量の増加に伴った目標数値の策定」の必要性から、
原単位の目標設定とした。

※単位(算定根拠)：実績量または想定量(各単位)を販売金額または販売想定金額(億)で割ったもの(例：〇〇/億)。



2023年度 環境活動の取り組み

【廃プラ回収 月平均2t以上達成！】

工場や事務所から出る大量のプラスチック袋や容器を分別回収し、
 燃焼処分、埋め立て処分になる量が劇的に減少しました。
 毎月2t以上の廃プラ回収し、5.5kg以上のCO₂削減になっています。



【マニュアルのDX化でエコも利便性もUP！】

ペーパーレス促進活動の一環でマニュアルのDX化を進めており、
 これまでマニュアルを紙で配布していたものを社用スマホでそのば
 すぐに簡単に確認できるように整備が進んでいます。順次確認できる
 マニュアルが増えていきます。これにより、作業の効率化(誰でもすぐ
 できる化)とペーパーレスを同時に実現できるようになってきています。

【脱炭素ゴミ袋へ移行】

これまで使用していたゴミ袋は70%リサイクル品だったのに対し、
 脱炭素ゴミ袋100%リサイクル品に移行しました。
 従来品よりもエコが全面に出たリサイクルゴミ袋を使用することで、
 廃棄に対する意識の向上にもつながっています。

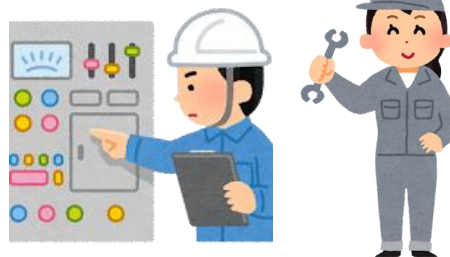


【ヘルシーテラス利用でプラ容器の利用なし】

社員の昼食が基本食堂(ヘルシーテラス)になったため、これまでお
 弁当で使用していたのプラ容器、割りばしの使用がなくなり、廃棄
 量が削減されました。事務所でも社員は引き続きマイコップ使用で
 紙コップ消費を最小限にしています。

【工場設備機器のエコ診断】

日々のメンテナンスを丁寧にしても老朽化は起こります。
 2023年度、外部業者協力のもと、全体的な工場設備機器の
 見直しを行いました。不足点を明確にし、次年度以降の改修
 目標・計画を立てています。変換効率の良い機器に変えたり、
 使用量の自動算出によって、より一層、環境にも社員にも
 優しい会社を目指しています。



【あげたい！もらいたい！みんなの不用品マッチングアプリ】

本アプリは、本社員が「あげたい！」と思っている物品を欲しい方(社員)にあげたり、
 「もらいたい！」と思っている物品を募集して入手したりと、不要な物品を必要な方に
 譲れるようにしたアプリです！基本は社員間の無償提供を前提に運用しています。



EA21 主要 継続環境活動

●各施設・工場での電気消し忘れ防止(チェックシート)

各施設の最終退出者はチェックシートに従って、消灯。電気の消し忘れを防止。

●冷房28℃、暖房22℃以下設定の徹底

エアコンの設定温度は全施設で夏は28℃、冬は22℃を徹底。

●機器メンテナンスの手順化・スケジュール化

機器メンテナンスの手順・年間スケジュール表をもとに、安全に電子機器を使用。定期メンテナンスで機器劣化によるエネルギーの過剰使用を抑制。

●空気清浄機の定期清掃

空気清浄機の定期清掃を実施し、電気負担を軽減。

●太陽光パネル発電量確認

設置可能な工場すべての屋根にある太陽光パネルで発電した電気を工場での製品製造に活用し、CO2の削減。全事業所で使用される電力の約10%を供給。電気は2022年11月以降、カーボンニュートラル電気に切り替え、CO2排出量は実質ゼロを継続中。

●カーボンニュートラル都市ガスの使用

工場で使用する蒸気は全量、**カーボンニュートラル都市ガス**※由来を使用。

※**カーボンニュートラル都市ガス**は、天然ガスの採掘から燃焼に至るまでの工程で発生する温室効果ガスを、新興国等における環境保全プロジェクトにより創出されたCO2 クレジットで**相殺すること(カーボン・オフセット)**により、地球規模では、この天然ガスを使用してもCO2が発生しないとみなされLNG 活用都市ガスです。

●ボイラー管理

各工場に供給されている蒸気の止め忘れを見える化(ホワイトボード)で防止。

●蒸気漏れ定期点検および修繕

蒸気漏れ箇所はすぐに施設保全課が修繕し、ムダな蒸気使用を防止。

●社用車のEV車導入検討

2024年度は1台を更新予定。

■ その他 継続環境活動

【ゼロエミッション活動】

植物エキスの製造後に排出される搾りかすを肥料や畜産のクッション材としてリサイクルする取り組みを行っています。新たな資源創生につながっています。



抽出残渣を堆肥に



【抽出残渣乾燥機導入】

抽出残渣に残っている抽出溶媒(有機溶媒)を乾燥工程で回収・再精製し、再利用できる状態にしています。これにより、化学物質の使用量抑制や、廃棄物の環境負荷低減につながります。

【水質に配慮した生産活動】

工場使用後の排水をきれいにして自然に還す水質保全に取り組んでいます。工場に併設されている排水処理設備では、「活性汚泥処理法」を採用しています。微生物が排水の汚れである栄養成分を食べることにより、汚れを取り除いています。



【グリーン調達・グリーン購入】

グリーン調達とは、原材料・資材・設備などの購入に際し、有害物質を含まない、資源が有効に活用されている、など環境に配慮した物品・サービスを優先的に選択することです。使用する物品について、環境負荷ができるだけ小さい原材料・資材・設備等の購入をめざしています。

【周辺地域美化活動】 月1回開催！

月に一回の頻度で、千葉本社敷地に面している道路脇のゴミ拾いとあいさつ運動を行っており、近隣の諏訪神社の清掃も実施しております。近隣の皆様が気持ちよく一日をスタートできるように、これからも美化活動に努めて参ります。



【食品ロス低減に向け生ごみ処理機活用】

昼食時の食べ残しを微生物の力でたい肥化し、食品ロスの低減に努めています。出来た堆肥は、自社ハーブ園やJR佐倉駅で新たな植物を育てるために使用されています。



屋内生ごみ処理機



自社ハーブ園の土

EA21 2023年度 環境活動報告

● 環境関連法規制等の遵守状況

適用法令等の遵守状況

違反、訴訟等の有無: 下記のように環境関連法規制等の違反はありません。
また食品リサイクル法における再生利用等の実施率は80%以上を維持できています。
なお関係当局からの違反等の指摘は、過去12年間ありません。

2024年5月31日時点

設備・項目	環境関連法規	届出	定期報告	定期点検	その他
全事業所	温対法		○		
	下水道法		○	○	
本社・工場	省エネ法	○	○		
	工場立地法	○			
工場設備	労働安全衛生法			○	健康診断
	振動規制法	○			
工場、蒸留塔、地下タンク等	騒音規制法	○		○	
	消防法	○		○	
スプレー乾燥機、残渣乾燥機	悪臭防止法	○			
工業用井戸	工業用水法		○		許可有
冷蔵、冷凍コンテナ等	フロン排出抑制法			○	該当機器の調査・点検
食品廃棄物	食品リサイクル法		○		
自動車	自動車リサイクル法			○	
ディーゼルトラック	NOx・PM法			○	
堆肥場	肥料取締法	○			
一般廃棄物及び産業廃棄物	廃棄物処理法		○		マニフェスト管理
貯蔵庫	高圧ガス保安法	○			
ボイラー	公害防止組織法			○	
	公害防止管理者法			○	
廃棄物置き場	プラスチック資源循環法			○	



● 代表者による評価と見直し

総括

当年度最大の環境への取り組みは、CO2排出量を99%(対2013年)削減し維持が出来たこと。これは、CO2排出量の影響が大きい電気とガスの削減取り組みによる、電気は、カーボンニュートラルの電気を100%購入、更に太陽光パネルを設置して工場屋根のPPA発電と自家発電で購入量を削減ガスは、カーボンオフセットしたLNGを100%購入、ニュートラル化を推進してきた。この活動は、【エコアクション21オブザイヤー2023 環境大臣賞】として表彰を頂き、更なる環境経営への取り組みに繋げている、2024年度からは、ESGファイナンスによるポジティブインパクト評価(環境部門)として2030年度までの新たなKPIを設定し、より環境に優しい環境経営を目標に活動を進める事とする。

Society

社会



べねたむ

社会への
取り組みたむ！

社会への取り組み



当社は、美化活動や佐倉ハーブ園の開放などの取り組みを通じ、地域・社会への貢献を推進しています。

令和6年能登半島地震の支援金寄附

2024年1月1日に石川県能登地方を震源とする地震が発生いたしました。少しでも被災地と被災された皆様のお力になりたいという気持ちから、1月18日と1月21日にsakuraヘルシーテラスでチャリティー映画上映会および支援募金を実施いたしました。

チャリティー映画上映会、支援募金、千葉県商工会議所連合会の能登半島地震義援募金により総額418,806円を支援金として被災地へ寄付させていただきました。



ポケットマネークラブ奨学金

一般社団法人千葉県経営者協会が行っている、ポケットマネークラブ奨学金へ寄附をしました。ポケットマネークラブ奨学金とは、経済的な問題で修学できない子供たちを支援する基金です。

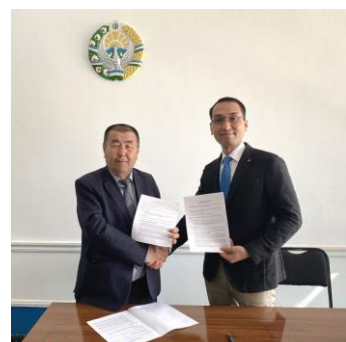
千葉県サステナビリティボンドへの投資

サステナビリティボンドは、調達資金の用途が、環境問題の解決を目指すグリーンプロジェクト（ブループロジェクト含む）、社会課題の解決を目指すソーシャルプロジェクトの双方に充てられる債券です。当社は本債券に賛同し、投資いたしました。

千葉県が目指す「千葉の未来」の実現に向けて、当社も協力して参りたいと思います。

カラカルパキスタン農業大学と砂漠の緑地化に向けた共同研究の契約を締結

立崎社長がウズベキスタンのカラカルパキスタン農業大学を訪問し、砂漠の緑地化に向けた共同研究の契約を締結しました。同研究はカラカルパキスタン農業大学とソメイヤッコ研究所 染井正徳社長、当社の3機関で行います。今後、現地の薬用植物の新しい栽培技術の導入試験を開始します。



■ 佐倉ハーブ園

本社工場に隣接した場所に“佐倉ハーブ園”を開園し、誰でも気軽に立ち寄れるよう、無料開放しています。約5000㎡の広い敷地に、1000種類以上の薬用植物や生活に役立つハーブなどを植栽しています。

四季折々、触れて、見て、薫って、味わって、五感で楽しめます。毎月1回、ボランティアの皆様と共にハーブ園を整備する日を設け、様々なハーブの植え付けや収穫、切り戻し、株上げなどを行っています。

今後も地域の皆さんの憩いの場、そしてハーブを身近に感じ、学ぶことができる場として皆さんにご利用していただきたいと思っております。

また、佐倉ハーブ園では、年間を通じて様々な体験イベントを開催し、2023年度も多くのお客様にご参加していただきました。



佐倉ハーブ園
sakura herb garden

▼HP▼ ▼facebook▼



▲上から見た佐倉ハーブ園▲



▲色とりどりのハーブ▲



▲ボランティアの皆様と▲

様々な人に佐倉ハーブ園に来ていただきたいという思いから、ハーブ園内のバリアフリー化工事を行い、車いすやベビーカーをご利用の方もご来園いただきやすくなりました。

より多くの方々にハーブの魅力を伝えていきたいです。



▲舗装された通路▲



▲車いす・こども優先通路▲



▲ハーブ石鹸作り体験▲



▲ジャックオランタン作り体験▲

季節ごとに行うイベントでは、子供から大人まで幅広い方々にご参加いただいております。

参加者の皆さんの笑顔を見ると、私たちも元気をもらえます。

今後も様々なイベントを通して、皆様にワクワクを届けてまいります。

■ 薬用ハーブ辞典

佐倉ハーブ園ホームページ内の「薬用ハーブ辞典」では、33種類の西洋ハーブや東洋ハーブについて、学名、成分、生理活性等の情報を提供しています。植物成分に関する情報の発信を通じた薬用植物の有効利用へ、今後も内容を充実させていきます。

▼佐倉ハーブ園ホームページ

<https://sakura-herben.tokiwap.com/>



■ 地域消防団への参加

佐倉市消防団第4分団に参加しています。佐倉市の防災訓練に参加すると共に歳末警戒活動などを通じて、火災予防を呼びかけています。



■ 佐倉の秋祭りへの参加・協賛

10月13日～15日に、「佐倉の秋祭り」が開催されました。

当社も祭りに協賛しており、有志の社員が当社のオリジナル法被を着て参加し、山車を引いて、一緒に祭りを盛り上げました。

久しぶりに全日の開催となり、会場は大盛り上がり子供から大人まで、たくさんの方が楽しそうに祭りに参加していました。



■ 印旛沼ダンボールイカダCUP出場

8月26日に開催された『印旛沼ダンボールイカダCUP』に企業枠で参加いたしました。

ダンボールイカダCUPは段ボールとガムテープのみでオリジナルイカダを作成し、印旛沼を漕いでその記録を競うというイベントです。当社からも社長含む4名で参戦し、tokiwaの名が施されたオリジナルイカダで挑みました。結果は惜しくも第3位でゴールしました。

次年度は、今回の結果を上回る順位を目指したいと思います。



■ 日本橋薬祖神への奉納

10月12日に日本橋の薬祖神で薬祖神祭が行われ、薬への感謝と、一年の無病息災をお祈りしてきました。今後も、歴史ある日本橋の薬祖神社の発展に協力して参ります。



教育への取り組み



常磐植物化学研究所は実験講座、体験実習を通じて科学が身近にあることを体感してもらい、次世代の科学技術系人材の育成の貢献に取り組んでいます。

戦後初の植物化学企業として、製品の販売だけでなく、化学発展の一助になればと考えています。子供が科学技術に親しみ、学ぶことができる環境や科学技術に才能を有する子どもを見出し伸ばすことができる環境を提供するため、理数実習の充実に努めています。

小学生向けCSRの開催

6月21日に、佐倉市立根郷小学校3年生の児童81名が、佐倉市内を巡る校外学習の一環で佐倉ハーブ園に来園し、ハーブ園の見学を行いました。根郷小学校の教育CSRの実施は今回で15回目です。

普段の生活ではなかなか触れる機会の少ない「薬用植物」や「ハーブ」を、見る・触るをテーマに、途中ハーブクイズを出しながら園をまわっていただきました。



9月20日に、佐倉市立小竹小学校3年生の皆さん68名が、佐倉市内を巡る校外学習の一環で、tokiwa本社に隣接する佐倉ハーブ園に来園されました！

ハーブを見て周ったり、ハーブティーを飲んだり、初めての体験がたくさんあり、大変楽しそうに行っていました。



中学生向けCSRの開催

～職業セミナー～

1月16日に、佐倉市立臼井南中学校の1年生を対象に実施された「職業人セミナー」に、講師として参加しました。

「職業人セミナー」は、実際に働いている人の気持ちを聞くことで職業観を広げること、働いている人と交流することで心を育むことを目的としたセミナーで、当社からは「研究職」についてお話しさせていただきました。

生徒の皆さんがこの先、将来の夢や進路・職業を考える時に今回のセミナーの話思い出して、参考にしてくれたら嬉しいです。



■ 高校生向けCSRの開催 ～第12回佐倉アカデミア～

7月24日に、千葉県立佐倉高等学校の生徒20名を対象に、植物成分を精製する実験講座“佐倉アカデミア”を行いました。2012年から行っているこの佐倉アカデミアは、今回で12回目。

実験内容はカラム精製の原理を学びながら、抽出液からアントシアニンを精製するというものです。高校の実験ではカラムでの精製を行うことがないため、皆さん新鮮な気持ちで取り組んでいました。

実験後の工場見学では、実験で行った精製の工程を工場スケールで行っている様子を見て、驚いていました。また、ハーブ園見学では様々なハーブと触れ合い、五感で楽しんでいる様子でした。

今回の教育CSRを通して、植物科学に興味・関心を持つきっかけとなれたら嬉しいです。



～高大連携活動「植物成分配合の『のど飴』の開発」～

日本薬科大学・カリタス女子中学高等学校の間で行われている高大連携活動※に、当社と株式会社榮太樓總本舗が協賛・技術協力を行っています。

※高大連携活動とは、日本薬科大学が行っている、探究活動や研究活動に関する支援、特別講座などについて高校・大学相互協力を目的としている活動のことです。

[テーマ]植物成分配合の「のど飴」の開発

[目的]:のど飴の開発体験を通して、課題発見や問題解決に必要な能力を育む。

(株)榮太樓總本舗ならびに(株)常磐植物化学研究所の設備・技術・取扱い可能な素材(原材料)を用い、植物成分配合「のど飴」を開発する。

[参加]:カリタス女子中学高等学校、日本薬科大学、(株)榮太樓總本舗、(株)常磐植物化学研究所

<開催状況>

- 第1回 2023年3月20日開催
- 第2回 2023年4月8日開催
- 第3回 2023年5月6日開催
- 第4回 2023年7月22日開催
- 第5回 2023年7月29日開催
- 第6回 2023年10月21日開催



■ 大学生向けオンライン講義

～ファイトケミカルと機能性表示食品開発～

11月18日に、法政大学のオンライン講義「植物医科ビジネス論」にて、立崎社長が講義を行いました。法政大学での講義は今回で11回目となりました。

今回は、「ファイトケミカルと機能性表示食品開発」と題し、当社の事業内容や植物に関する研究実績、そして立崎社長のこれまでの人生についてを話しました。

今回の講義が、学生の皆さんにとって実りのある時間となったならうれしく思います。

～HACCPに関する講義～

12月1日に、東京農業大学の学生を対象に、HACCP管理に関する特別講義をオンラインにて開催しました。

品質保証室の社員が講師となり、当社が原料メーカーとしてどのように製品の品質・安全を守っているのか、どのような管理体制をとっているのかを紹介しました。



■ 佐倉サイエンスアカデミーの開講

8月25日に、第3回佐倉サイエンスアカデミーを開講しました。

佐倉サイエンスアカデミーとは、世界で活躍されている研究者の方々に、植物化学(科学)の歴史から最新トピックスまで、幅広い領域をわかりやすくお話していただく、オンライン講義です。



佐倉サイエンスアカデミー

水上元 先生(名古屋市立大学名誉教授前高知県立牧野植物園園長)を講師にお招きし、「植物の多様性を調べ、保全し、利用する ～牧野富太郎の思いを現代に生かすために～」をテーマに、植物多様性の調査・保全とその利用とのかかわりについてお話していただきました。

講義後は佐倉ハーブ園にて水上先生による植物ガイドウォークを実施しました。葉を噛むと甘さを感じなくなる植物や、香りを楽しめるハーブなど様々な植物についてご紹介していただきました。



植物化学発展への取り組み



常磐植物化学研究所は植物化学の発展への貢献活動の一環として、関連する学会、機関、大学等への参画、協賛、共同研究等を行っています。

■ 共同研究

～ハイビスカス抽出物の生活習慣病改善効果と その作用機序に関する基礎的検討～

武庫川女子大学薬学部薬学科 高明教授らとの共同研究により、肥満モデル動物において、当社ハイビスカス抽出物が血糖値及び血中脂質指標の改善効果を持つことが示されました。更に詳細な作用機序の検討により、糖新生阻害、LDLコレステロールや糖の細胞内取り込み促進作用が示唆されました。糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病に対する、ハイビスカス抽出物の効果が期待されます。

本研究成果に関して、2024年3月28日(木)～31日(日)に開催された日本薬学会第144回年会において、口頭発表を行いました。

～マテ抽出物「MATESOL™」のAMPK、インスリンシグナル 経路を介した細胞内脂肪蓄積抑制効果について～

武庫川女子大学薬学部薬学科・高明教授との共同研究にて、マテ抽出物「MATESOL™(マテソール)」を肥満モデル動物ならびに肥満前駆細胞に投与した試験で、細胞内脂肪蓄積を抑制することが明らかとなりました。更に、作用機序の検討によって、この効果がAMPKシグナル経路およびインスリンシグナル経路を介したものであることが示唆されました。

MATESOL™がメタボリックシンドロームに対して幅広く効果を持つ可能性が期待されます。本研究成果は、2024年1月の*Food&Nutrition Research*に掲載されました。

～黒ウコン抽出物「SIRTMAX®」に犬の抗肥満・ 腎機能低下抑制効果の可能性～

千葉科学大学危機管理学部動物危機管理学科・教授、どうぶつ医学教育研究支援センター・センター長、大相模動物クリニック・名誉院長の小沼守先生との共同研究にて、黒ウコン抽出物SIRTMAX®(サートマックス)の当社初となる犬に対する安全性・有効性試験を実施いたしました。試験では、健常な犬にSIRTMAX®を5mg/kg/日摂取させた結果、血中アディポネクチン濃度の上昇が確認され、抗肥満作用が示唆されました。更に、腎機能のバイオマーカーとなるクレアチンの血中濃度の低下傾向が確認され、腎機能低下の抑制効果が示唆されました。

今回得られた知見に基づき、特許出願中(特願2024-8267、PCT/JP2024/005033)ならびに論文投稿中です。犬の肥満・腎機能低下を抑制するペット向けの素材としての活用が期待されます。

■ 研究機関・大学の共同研究

(研究機関) 国立医薬品食品衛生研究所 等
(大学等) 名古屋大学、東京大学、武庫川女子大学 等

■ 研究報告

- ・定量 NMR によるアントシアニンの純度測定～測定溶媒の最適化～
- ・Safety studies of LAURESH® a standardized *Laurus nobilis* leaf extract
- ・Anti-Aging Activity of *Kaempferia parviflora* Extract (SIRTMAX®) and its Standardizing Constituent 3,5,7,3',4'-pentamethoxyflavone (PURESIRTMAX®)
- ・Antiobesity effect of *Kaempferia parviflora* accompanied by inhibition of lipogenesis and stimulation of lipolysis
- ・ブシモノエステルアルカロイドの相対モル感度(RMS)を用いた日本薬局方定量法の検討
- ・社員のための「健康経営サプリ® ラフマ&GABA」大切な社員の心と体の健康を支える福利厚生サブスクサプリ
- ・Effect of *Apocynum venetum* Leaf Extract (VENETRON®) on Unidentified Complaints Relating Menstruation in Healthy Female Subjects – A Randomized, Double-blind, Placebo-controlled Parallel-group Comparison Study –
- ・*Ilex paraguariensis* A.St.-Hil. improves lipid metabolism in high-fat diet-fed obese rats and suppresses intracellular lipid accumulation in 3T3-L1 adipocytes via the AMPK-dependent and insulin signaling pathways
- ・ハイビスカス抽出物の生活習慣病改善効果とその作用機序に関する基礎的検討
- ・ラフマ葉抽出物による月経に伴う不定愁訴の改善

■ 主な学会、研究会への参画・寄付・協賛

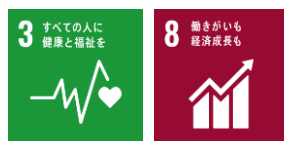
植物化学研究会、日本生薬学会、日本薬史学会、日本薬学会、日本抗加齢医学会、日本農芸化学会、日本未病学会、薬用植物栽培研究会、和漢医薬学会、ヨウ素学会、日本植物バイオテクノロジー学会、理研と未来を創る会

■ 主な加盟団体

日本漢方生薬製剤協会、(公社)東京生薬協会、(公社)東京医薬品工業協会、日本医薬品原薬工業会、(一社)千葉県製薬協会、(一社)日本食品添加物協会、(公財)日本健康・栄養食品協会、(一社)日本栄養評議会、(一社)日本健康食品規格協会、化粧品原料協会、甘草工業懇話会、ステビア工業会、(一社)日本ブルーベリー協会、(一社)日本カシス協会、千葉県食品産業協議会、(一社)健康食品産業協議会、(一社)ウェルネスフード推進協会



健康経営への取り組み



当社は、創業100周年に“世界一の植物化学企業”となることを目標に掲げています。その目標は、サステナブルな従業員なしには到達できないものです。当社では、従業員の健康を第一に考えた健康経営を推進しています。

常磐植物化学研究所 健康経営方針
waku-waku健康宣言

常磐植物化学研究所は、「社員の幸福と社会の発展に貢献する」ことを経営理念に掲げており、社員の健康こそが社員の幸福と全事業におけるサステナビリティ活動の根幹であると考えます。そこで、独自の健康経営として、「waku-waku健康宣言」を実施し、社員の健康増進に努めます。

1. 感謝とワクワク

人、社会、そして植物に生かされていることに感謝し、ワクワクを大事にします。

2. ベジファーストと噛む習慣

sakuraヘルシーテラスにて野菜を中心とした健康的な昼食を社員に提供します。300グラム(キャベツ 1/4 玉相当)以上の野菜や果物の摂取と、野菜を先に食べること(ベジファースト)及びよく噛んで食べることを推奨します。

3. 適度な運動習慣

毎日のラジオ体操の実施と、SAKURAスポーツパークを活用した部活動の実施を推奨します。

4. 「健康経営サプリ」の提供

「健康経営サプリ」を通じ、健康増進の機会を提供します。

5. 健康的な知識・意識の向上

健康習慣についての情報提供と、学習の機会を定期的に設けます。

6. 健康診断の実施と人間ドックの推奨

健康診断の検査項目を充実させ、さらに、人間ドックの受診を推奨します。
また、ストレスチェック実施後のフィードバックを行います。

制定年月日:2024年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

立崎 仁

健康経営優良法人ブライト500認定

健康経営優良法人2024(中小規模法人部門)にて、2年連続で「ブライト500」に認定されました。「ブライト500」は、応募した中小規模法人のうち上位500社に贈られる認定です。

健康経営優良法人とは、地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を経済産業省が顕彰する制度です。

ブライト500認定を継続できるよう、今後も更なる健康経営の推進に取り組んで参ります。



2024
健康経営優良法人
Health and productivity
ブライト500

ラジオ体操指導員認定の取得

6月30日にNPO法人全国ラジオ体操連盟主催の、ラジオ体操指導員認定取得のためのオンライン講習が行われました。

正しいラジオ体操を行うことで、運動の機会となり、健康増進につながります。毎日のラジオ体操をしっかり行い、健康な一日を過ごせるようにしていきます。



健康経営サプリ®

当社の事業を活かした健康経営への取り組みの一つとして、“健康経営サプリ®”を導入しています。

健康経営サプリ®は、社員の衆知を結集し、創業から70年以上にわたり研究し続けてきたエビデンス豊富な当社の植物エキスをふんだんに配合した、“社員の、社員による、社員のための”オリジナル処方ofのサプリメントです。

健康経営サプリ®は、福利厚生の一環として社員に無料で提供しています。

社員の健康に寄与することはもちろん、社員が自社の製品について知るきっかけにもなっています。



当社の睡眠素材「ベネトロン®」とGABAを組み合わせた「健康経営サプリ ラフマ&GABA」▶



働きやすい環境づくり



当社は、一人ひとりがやりがいと誇りを持って働くことができるよう取り組んでいます。

■ ワークライフバランス

長時間労働の削減、休暇の取得促進、様々な働き方を通じて従業員の健康を守り、仕事とプライベートの調和のとれたワークライフバランスを推進しています。

● 残業時間の削減

業務の効率化を図り、残業時間の削減に向けて取り組んでいます。19時には本社の照明が自動的に消灯するようになっており、遅くまで残らないように対処しています。また、月2回のノー残業デーを設定しています。

● 有給休暇取得促進

1日、半日単位その他、朝または夕方における2時間単位での有給休暇付与制度を導入し、取得率向上につなげています。

また、年に一度、有給休暇に併せて食事券を付与する『ハッピーファミリーデー』の取り組みも、2009年より継続しています。

● 様々な働き方

社員の生活環境に合わせた働き方を選べるようにしています。

在宅勤務制度、時差出勤制度、選択的週休3日制度、兼業・副業制度 等。

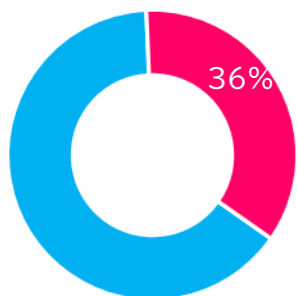
例)・資格取得に向けた学習をするため、選択的週休3日制度を活用

・子供の保育園のお迎えに行くため、出勤・退勤時間を1時間早める時差出勤制度を活用

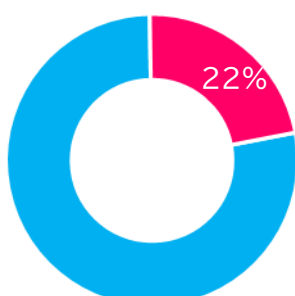
■ 女性の活躍支援

女性の活躍支援に取り組んでいます。新任管理職への研修などを実施。女性がこれまで以上に活躍できる職場環境づくりを展開しています。また、お子様の成長に合わせて、柔軟に時短勤務制度を取り入れています。

● 女性従業員・女性管理職比率



■ 男性 ■ 女性
女性従業員比率
(2024年3月現在)



■ 男性 ■ 女性
女性管理職比率
(2024年3月現在)

● 育児休業制度・育児短時間勤務利用者数

年度	2021	2022	2023
育児休業制度利用者数(人)	0	1	1
育児短時間勤務利用者数(人)	3	3	4

■ 経営理念研修

三方よしビジネスサポート研究所の古望高芳先生をお招きし、“経営理念研修”を実施しました。2020年度に初めて実施し、それから4年間連続で実施しています。“経営理念研修”とは、当社の経営理念をより深く理解し、企業ビジョン設定・目標達成に向けて何が必要かを考え、経営に実装していくための研修です。この研修の経験を、今後の仕事に活かしていき、創業100周年に“世界一の植物化学企業”になれるよう、精進してまいります。



■ キャリア支援

OJTを通じ自立型人材を育成しています。

全ての社員に成長する機会を与えられるよう階層別、テーマ別研修を設けています。

最近では、管理職のヒューマンスキルを高める研修や新人・若手社員の早期戦力化に向けた研修に力を入れています。

1カ月の勤務時間のうち8時間以上を学習時間を設定し、個人の能力アップにつながる学習を推進しています(例:外部セミナー受講、資格取得に向けた勉強など)。

また、グロービス大学院の授業をオンラインで受講できる環境も整備しています。

■ 永年勤続・優良従業員表彰

11月2日(木)に佐倉商工会議所主催で行われた「永年勤続・優良従業員表彰式」にて、当社社員11名が表彰されました。30年表彰で2名、20年表彰で2名、10年表彰で1名が表彰されました。長きにわたり会社を支え、共に会社の成長・発展を見守ってくれている社員に感謝です。



■ 1on1制度

若手社員一人一人に中堅以上の社員をメンターとしてつけ、定期的に面談を行う1on1制度を設けています。メンターは他部門の社員をつけており、若手社員のメンタルサポートや悩みの解決の糸口を見つけることができます。

■ 人と人が繋がる職場づくり

会社組織で働くうえで重要であるのは、社員がお互いに尊重し合い、認め合うことです。社員全員が同じ文章を読み、感想を述べ合い、美点重視で意見交換をする「社内木鶏会」を実施しています。それぞれの考え方を尊重し、認め合う事で、仕事をする環境がより良いものになっています。

■ 焼き芋フェスタ開催

12月7日(木)に、佐倉ハーブ園で収穫したサツマイモを焼き、社員に焼き芋を振る舞う“焼き芋フェスタ”を開催しました。

社員は、幸せそうな顔で焼き芋を頬張っていました。甘くて美味しい焼き芋を食べて、やる気もお腹も満タンになりました。



■ 社員旅行

7月14日～15日に、社員旅行を行いました。本年度は群馬県への旅行で、スポーツ大会を行いました。チーム対抗戦でレクリエーションを行うことで、より社員同士の絆が深まり、楽しい2日間を過ごすことが出来ました。社員旅行は、社員がリフレッシュする良い機会になっています。



労働安全・衛生への取り組み



従業員が安心して働けるよう、健康と安全はすべてに優先し、労災事故件数0(ゼロ)を目標に、安全な職場づくりに取り組んでいます。一人ひとりの安全意識の向上、設備面・作業面のリスク低減に向けた活動を継続しています。

■ 安全衛生スローガン

安全なしに、幸福なし。 衛生なしに、幸運なし。

労働安全衛生方針

1. より安全な労働環境をつくります

労働災害があれば、事業が如何に順調であろうと幸福などあり得ません。
日々労働環境を見直し、安全な職場を提供します。

2. より健康的な労働環境をつくります

健康的な労働環境をつくり、社員の健康増進をはかることで、
お客様からの信用・信頼につながる、幸せ・めぐりあわせを感じる職場をつくります。

3. 職場環境を改善し、働きやすい職場をめざします

リスクアセスメントの効果的な運用と実施により、職場に潜む危険要因を特定し、
改善することで、安心して働くことができる職場環境づくりに努めます。

4. 安全衛生教育及び啓発活動を通じて、意識の向上に努めます

当社で働く全ての人に適切な教育や啓蒙を行うとともに、労働安全衛生意識を高め、
全員で災害防止と健康増進に取り組めます。

5. 法令を遵守します

労働安全衛生に係る法令を遵守するとともに、必要な社内規程を整備・更新し、
危険に対する高い感性を持ち、安全行動を積極的に行う人財を育てます。

6. 継続的な見直しと改善を行います

労働安全衛生リスクを低減するための目標を設定して
計画的に活動し、適宜見直しを行うことで、労働安全衛生
活動の継続的改善に努めます。

制定年月日:2024年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

立崎 仁

労働安全衛生に関わるマネジメント体制

毎月「安全衛生委員会」を開催し、「リスクアセスメント」による潜在的リスクの低減活動を中心に、全員参加の安全衛生活動を推進しています。

労働安全面のさらなる向上に取り組むとともに、メンタルヘルスに重点を置いて衛生・健康面の取り組みを強化しています。

5S活動、安全ルールの順守、リスクアセスメントの徹底、教育・支援の強化、災害撲滅のPDCAサイクルの確実な実行に努めています。

労働安全・衛生への取り組み

- 労働安全教育
- リスクアセスメント担当教育
- 各工程におけるリスクアセスメント教育
- 機械操作によるリスクアセスメント教育
- 技能講習・特別教育の受講
- 外部講習への参加
- 防災訓練の実施(2023年12月28日)



自主的な安全衛生管理の向上

- 安全衛生基準の設定
- 安全衛生委員会会議の実施
- 全国安全週間、全国労働衛生週間、長期連休明け社内独自安全月間の設置
- 安全衛生委員の構内巡視と従業員への安全遵守
- 保護具着用の徹底
- 5S活動、危険予知・ヒヤリハット活動
- 作業手順の周知と遵守



健康の保持促進と快適な職場環境の形成

- ストレスチェックの実施、部門別評価と改善活動
- 全社および部門別ノー残業デーの設置
- SAKURAスポーツパークを利用したクラブ活動
- 時間外労働時間削減、年次有給休暇取得率向上の取り組み
- 労働時間管理、長時間労働者の状況確認とヘルスケアサポートの推進
- 産業医との健康相談窓口の開設
- 健康診断受診率100%
- 健康診断有所見者への健康指導、受診勧告
- 熱中症予防対策の実施および熱中症が疑われる場合の迅速な対応



資格取得促進・法令遵守

- 危険物取り扱いに関する資格取得の奨励、補助
- フォークリフト技能講習
- ラジオ体操講習



Governance

企業統治



ベねたむ

企業統治への
取り組みたむ！

公平性・透明性のための情報開示



社員および株主に対し、公平性・透明性のため、当社の経営情報を様々な形で開示しています。

■ 株主総会 (役員 → 株主および全社員)

株主に対し、前年度の経営情報を報告しています。
また、株主総会の様子は録画し、全社員が閲覧できるようにしています。

■ 全社総会 (役員 → 全社員)

全社員に対し、前年度の経営情報を共有しています。
売上実績だけでなく、利益や投資、労働生産性等についても共有し、全社員の意識を高めています。
質疑応答の時間も設け、社員から役員へ、様々な質問がされ、その場もしくは後日回答しています。



■ 経営報告会 (役員 → 東京中小企業投資育成(株)および会計士)

東京中小企業投資育成(株)および会計士に向け、四半期ごとに経営報告会を実施しています。
外部に経営情報を報告することで、客観的な意見をもらうことができ、その意見を踏まえた透明性の強い経営を行うことができます。

コンプライアンスの遵守



あらゆる事業活動においてコンプライアンスを遵守するための環境づくりに努めています。

■ コンプライアンスに関する窓口設置

コンプライアンスに反する職場・事業活動に関する窓口を設置しており、社員が匿名で意見を提出できるようになっています。提出された意見は役員会にて協議され、改善が必要な場合は即座に対応する体制を構築しています。

■ ハラスメント防止対策

当社はハラスメント防止規程を策定し、ハラスメントに関する相談窓口を社内に設置しております。また、部下の指導におけるパワハラ防止のため、管理職を対象にパワハラ対策セミナーを開いています。「ハラスメント防止方針(下記)」のもと、社員一人一人をハラスメントから守り、誰もが安心して快適に働ける職場づくりに努めて参ります。

ハラスメント防止方針

1. 行為者への厳正なる措置

私たちは、ハラスメント行為またはそれらを見過ごす行為を断じて許しません。発覚した場合には、行為者に対し厳正に対処します。

2. 被害者の救済

私たちは、ハラスメント被害者・相談者を必ず守ります。相談者や事実関係の確認に協力した方々のプライバシーに配慮し、不利益が生じないよう、最善を尽くします。

3. ハラスメント防止体制の整備

私たちは、すべての社員が個人として尊重され、ハラスメント行為が発生しないような健全な職場環境で働くことができる取り組みを推進します。

4. 相談窓口の設置

ハラスメントに関する相談窓口を設置し、苦情・相談の申し出があった場合は、規程に則り迅速かつ適切に対応します。

制定年月日:2024年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

立崎 仁

人権の尊重



当社は自然や植物、社会、人のために、「for you」の精神を常に持つことで、明るく・愉しく・思いやりのある社会になると信じています。

人権方針

1. 人間大事

経営理念研修・経営で培ってきた「人間大事の精神」を生かし、人権尊重の心を持ち続けます。人権への悪影響、人権侵害の恐れ、助長が確認された際は、速やかにそれに対処し、また人権への悪影響が無いよう予防に努めます。

2. 人権デュー・ディリジェンス(人権DD)の実施

取締役会直轄の人権DD委員会、責任者、担当者を設け、指導原則に従い、社内外における人権への悪影響の特定、予防・軽減、対応と実績調査、外部への情報開示に努めます。

3. 救済メカニズムの構築

人権侵害への救済の仕組みとして、社内に人権救済目安箱の設置、社外からの問合せに人権項目を加え、社内外で確認された人権侵害に対し、早期かつ直接的に是正していくことを努めます。

4. 社内教育および社会啓蒙

人権への悪影響、人権侵害について、年に1回以上教育の機会を設けます。また、社会啓蒙として、社外セミナー・広報媒体等で、人権を尊重する企業の責任について言及し、人間大事と人権尊重の啓蒙に努めます。

5. 有識者、ステークホルダーとの対話と協議

指導原則に基づき、有識者、ステークホルダーとの対話を大切にしながら、定期的に協議を重ねていきます。人権の尊重と保護に対して責任を持って取り組むべく、あらゆる指摘に速やかに対処し、本方針を改定して参ります。

制定年月日: 2024年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

立崎 仁

確かな品質の製品を製造するために



当社では、確かな品質の製品を製造するため、品質方針のもとで厳格な品質管理を行っています。また、各種認証を取得し、消費者の皆様にご安心してご使用いただける製品を製造しています。

品質方針

私たちは、経営理念を実現するために、『行動規範』に則り、以下の品質方針を定め、みなさまの健康づくりに貢献します。

1. 法令遵守、情報管理、安全性確保の仕組み構築を推進し、社会的責任を果たします。
2. 品質マネジメントシステムの有効性について、継続的に改善します。
3. 品質に関する教育を積極的に行い、全社員の品質意識のさらなる向上を図ります。

制定年月日:2024年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

■ 各種認証取得

当社工場ならびに製品では下記の認証を取得し、確かな品質の製品づくりにつなげています。

- ・医薬品製造業許可
- ・動物用医薬品製造業許可
- ・食品営業許可証(清涼飲料水製造業)
- ・食品営業許可証(添加物製造業)
- ・食品営業許可証(密封包装食品製造業)
- ・JIHFS 健康食品 原材料GMP 認証
- ・Codex規格HACCP認証
- ・ハラール認証(一部製品にて)
- ・コーシャ認証(一部製品にて)



■ 行政監査・ユーザー査察対応

当社では、海外(米国FDA 他)を含め、査察や監査の積極的な受入れを行っています。その中で頂戴した貴重なご意見には真摯に向き合い、常に品質水準の向上に努めています。

	日時	対象	内容
千葉県	2024年3月	食品	清涼飲料水営業許可更新査察
	2023年11月	医薬品	定期GMP適合性調査
	2023年9月	医薬品	動物用医薬品適合性調査
	2023年6月	食品	添加物製造業許可証更新調査
健康食原材料品 GMP	2024年2月	食品	JIHFS健康食品原材料GMP更新審査
HACCP認証	2023年4月	食品	HACCP維持審査
HALAL認証	2023年6月	食品	更新審査
コーシャ認証	2023年10月	食品	更新審査

BCPへの取り組み



2021年3月に、“事業継続力強化計画”の認定を受けました。事業継続力強化計画とは、中小企業が策定した防災・減災の事前対策に関する計画を経済産業大臣が認定する制度です。当社では独自のBCP方針(下記)を策定しており、有事の際には方針に従い行動します。今後も防災・減災対策を促進していき、事業継続力強化に精進して参ります。



BCP方針

私たちは、災害が発生した際には、「全ての生命を守る」「お客様と地域の支援」を最優先に行動することを宣言します。

1. すべての社員とそこのご家族の安全を確保します

災害が発生した際には、何よりも常磐植物化学研究所で働く全ての社員とそこのご家族の命、安全を確保することを最優先に行動します。

2. 顧客の信用と従業員の雇用を維持し、企業としての責任を果たします

事業を継続し、早期回復するためにあらゆる努力を行い、ステークホルダーからの信用・信頼と、社員の暮らしを守ります。

3. 透明性のある情報を開示します

社内外における情報収集を徹底し、必要な情報を迅速に開示・提供します。

4. 地域と社会を支援します

地域・社会との協調、連携、復興支援を行い、社会貢献に努めます。

5. 社員の意識向上を図ります

私たちが日々平穏に生きていられるのは当たり前ではないことを認識し、自然、社会、日常へ常に感謝する意識を全社で醸成します。

制定年月日:2024年4月1日
株式会社常磐植物化学研究所
代表取締役社長

立崎 仁

“世界一の植物化学企業” を目指して



tokiwa
PHYTOCHEMICAL

▼HP▼ ▼facebook▼ ▼YouTube▼



Sana
自然と美と健康

▼HP▼ ▼Instagram▼



べねたむ®

▼X▼ ▼Instagram▼



佐倉ハーブ園
sakura herb garden

▼HP▼ ▼facebook▼ ▼X▼ ▼Instagram▼▼YouTube▼



最後まで読んでくれて
ありがとうたむ！



べねたむ®

tokiwa 株式会社 常磐植物化学研究所
PHYTOCHEMICAL

本社・工場 〒285-0801 千葉県佐倉市木野子158番地 TEL:043-498-0007 FAX:043-498-0561
東京支社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-4-16 TEL:03-5200-1251 FAX:03-5200-1256